

オーストラリアとロシア語

—— 在豪ロシア系移民のロシア語・ロシア文化の保持に関する一考察 ——¹

白山 利信

キーワード：オーストラリア，ロシア語，移民，継承語

1. 研究動機

「なぜあなた（＝白山）はロシア語・ロシア文化に関するこの国際会議において英語で発表したのですか、わたしはシドニーのロシア民族学校のロシア語の教師ですが、英語ではなく、ロシア語の発表を期待していました。非常に残念です。」これは、2007年10月にシドニーのマッコーリー大学で行われた国際会議「ロシアの言語、文学、文化および歴史に関する会議」（組織責任者：Nonna RYAN 博士）で、わたしが「カザフスタン共和国アスタナ市、アルマトイ市における社会言語学的調査の実施報告」の題目で口頭発表した際の出来事である。発表内容に対する質問を期待していたわたしにとって、全く思いがけない発言であったし、彼女の意思表示の意味がわからなかった。彼女の発言を受け、その後のわたしの発表内容に関する議論は英語ではなく、ロシア語で行われた。

2日間に及ぶ会議終了後の懇親会で、例の発言をした年配のロシア語教師である彼女と知り合い、彼女の同僚たちとも知り合いになった。そこでわかったことは、彼女たちの多くは高齢であったが、皆1950年代に政治的な理由でソ連・ロシアに戻るができなかったオーストラリアに亡命した、中国（ハルビン）出身の白系ロシア人だった。また皆ソ連時代はロシアを訪れたことはなく、つまり、彼女たちがオーストラリアで生きた半世紀はロシアに行った経験はなく、ソ連崩壊後に初めてロシアを訪れたという事実を知り、驚嘆した。というのも、約50年間も祖国から断絶した生活を強いられていたにも関わらず、彼女たちは、英語の訛りのまったくなく、しかも非常に美しい完璧なロシア語を話していたからである。それを可能にするほど、ロシア語・ロシア文化に対して強い思いを持って生きてきたということだ。そして、ロシア語、ロシア文学、ロシア文化について会議などで本気で議論する場合、ロシア語でなければ本当の意味ではできないという彼女の主張を理解した²。またシドニー市内には、7校のロシア民族学校があり、ロシア系移民の子供たちがロシア語で教育を受けていることを知り、さらに驚いた。そこでは、白系ロシア人たちの第三世代、つまり孫の世代やソ連崩壊後にオーストラリアに移民したロシア人の子供たちが学んでいること、移民と言っても様々な移民の波があることを知った³。

これらの事実はわたしにとっては衝撃であったが、母語と母文化の源流である祖国から切り離されながら、ロシア系移民たちがどのようにしてロシア語を守り、ロシア文化を代々伝えてきたのか、またオーストラリアというイギリス系ヨーロッパ文化の影響の強い英語圏国家で、ロシア人としてのアイデンティティーをど

1 筑波大学一般言語学研究会月例会（人文社会学系棟 A602, 2009年6月30日）の発表において配布した報告資料を一部訂正したものである。

2 これはよく理解できる心理的態度である。例えば、日本語、日本文学、日本文化について日本語以外の言語、例えば、英語で議論する場合、日本語でのみ伝わる繊細かつ大切なニュアンスがすでに損なわれている、あるいは失われている気がするのと同じである。

3 ロシア系移民の波は、研究者によって分けが異なる。

のように形成しているのか、あるいはオーストラリア人としてのアイデンティティーとロシア人としてのアイデンティティーをどのように両立させているのかという学問的問題に興味を持った。

2. 筑波大学国際連携プロジェクト

プロジェクトの目的：

本学の教育研究活動等における国際連携及び本学職員の国際化を図ること

プロジェクトの種類：

- ①筑波大学国際連携プロジェクト（招へい）
- ②筑波大学国際連携プロジェクト（長期派遣）☆
- ③筑波大学国際連携プロジェクト（短期派遣）
- ④筑波大学国際連携プロジェクト（イベント・フォーラム形成）

調査研究題目：

「オーストラリアにおけるロシア系移民のロシア語教育とアイデンティティーに関する調査研究」

派遣国及び派遣先機関：

オーストラリア連邦マッコーリー大学（シドニー）

派遣期間：

2008年7月1日～2009年1月7日（計191日間）

研究経費：

250万円

派遣先機関での立場：

マッコーリー大学教養学部（ヨーロッパ学科ロシア専攻）客員准教授

研究の背景：

露豪関係の歴史はすでに200年以上に及ぶ（1807年以來）。西洋人入植初期の19世紀前半にはロシア系移民の記録が残されている。ロシア系移民の波は一樣ではなく、少なくとも大きく4つの時期、すなわち、①植民地時代、②帝政ロシア時代、③ソヴィエト時代、④ポスト・ソヴィエト時代、に分けられる。各時期をさらに細分化することもできる。

帝政ロシア末期及びソヴィエト時代のロシア系移民（ロシア語話者移民）は、多くの場合、戦争と政治の荒波の中で、オーストラリアに入植したという社会的背景を持っており、それぞれの思想・信条（「白系」、左翼系など）や宗教（ロシア正教、ユダヤ教など）を基盤とするロシア・コミュニティをつくり、支え助け合い、相対的に強固な人間関係を築いてきた。一方、ポスト・ソヴィエト時代以降のロシア系移民は、そ

うした強い思想的な共通基盤を持っておらず、その大半がより条件の良い仕事を求め、富を築きたいという願望に基づく経済的な理由で入植している。現在、8万人を超えるロシア系移民（及びその子孫）全体に占めるペレストロイカ期以降のロシア系移民の割合が大きく高まり（1991年の旧ソ連出身の移民数は17900人、1993年は21000人）、オーストラリアにおけるロシア系移民コミュニティは多様で複雑な様相を示している。

研究の目的：

研究プロジェクトでは、特にペレストロイカ期、ポスト・ソヴィエト期のロシア系移民の既存のロシア系移民コミュニティに対する影響に焦点を当てて、新旧ロシア系移民の第二、三（あるいは四）世代の若者たちへの言語教育・文化教育の現状・歴史・課題について、社会言語学的観点から事例研究を行うものである。具体的には、シドニー市内にある、ロシア系移民（および一時的滞在者）の子供たちのための7つのロシア語学校（ロシア正教系の教会などが運営）において、教師、児童・生徒およびその両親などに対するインタビュー調査やアンケート調査を行い、移民世代（親）と次世代（子）の言語意識とアイデンティティーの実態の一端を究明する。

研究の意義：

最近20年間の世界の移民動態の中心的位置を占めるのは、ソ連崩壊後に激流となって始まった旧ソ連邦出身のロシア系移民である。オーストラリアへの移民数は、ドイツ（300万人）、アメリカ（130万人）、イスラエル（110万人）への移民数と比べると格段に少ない。しかし、ロシア系移民の言語とアイデンティティーに関する研究という側面から考えると、民族的マイノリティーとの積極的共存政策である多文化主義政策の中で生きるオーストラリアのロシア系移民の言語教育とアイデンティティーの問題は、民族的マジョリティーの強力な同化政策の中で生きるドイツやイスラエルのロシア系移民とは大きく異なり、独自の学術的価値を持っている。

また旧ソ連邦出身のロシア系移民のロシア語教育とアイデンティティーに関する社会言語学的研究は世界的に開始されたばかりであり、特にペレストロイカ期及びポスト・ソヴィエト期以降のオーストラリアのロシア系住民に関する詳細な調査研究は、発表者の知る限り、行われていない。その意味でも当該研究プロジェクトは、学術上、非常に先駆的な意義を有している研究である。

当該研究の成果は、世界の他の地域におけるロシア系移民の言語とアイデンティティーに関する研究成果とを有機的に結びつけた比較研究へと発展・昇華させていける可能性を持っており、移民研究全体への寄与も期待されるものである。また広い意味で、言語学、社会学、民族学への一定の学術的貢献も見込まれる。

さらに本格的な少子高齢化社会の時代を迎えた日本社会が、外国人労働者人口の安定的な確保という課題の中で、将来的に外国人の移民問題に直面するという予測もなされているので、当該研究プロジェクトの成果をこうした日本の近い将来の政策課題に何らかの形で役に立つ貴重な生きたデータの一つとして蓄積することができる。

研究の概要：

オーストラリア連邦は現在4人に1人の国民が外国生まれという移民大国である。報告者は8万人を超える在豪ロシア系移民（82,409人、2006 Census of Population and Housing, Australia）の存在に着目し、そのエスニック言語であるロシア語の教育事情と民族的・文化的アイデンティティーの保持に関する現状と課題等を明らかにする目的で、ロシア系移民コミュニティを通じて、社会言語学的なフィールドワーク調査を行った。また、在豪ロシア系移民に関する様々な文献も幅広く収集した。

ロシア系移民と一口に言っても決して単純ではなく、様々な時代（帝政ロシア時代、ソヴィエト時代、ロシア連邦時代）に様々な背景（出身地、イデオロギー、民族、宗教、経済、世代）を背負って来豪した移民が存在する。調査では、シドニー市、メルボルン市、ブリスベン市、アデレード市において、1940-50年代にヨーロッパから移民した第一世代、1950-60年代に中国（満州、上海など）から移民した第一世代及び第二世代、1970年代にソヴィエト連邦から移民した第一世代、そして1991年のソ連崩壊後に旧ソ連から移民した第一世代の被験者30人以上を対象に聴き取りインタビューを実施した。質問項目は35で、移民の経緯、言語教育、アイデンティティーに関するものである（一人につき、平均して1-2時間）。

さらに、ロシア語教育を実施している以下のロシア民族学校（基本的に土曜日ないし日曜日に開校）を訪問し、校長先生をはじめとする関係者にロシア語教育の歴史・現状・課題に関するインタビューを行うとともに、実際の授業を参観した。一部の学校では、教員、児童、父兄を対象にアンケート調査も実施した。

1. ホムブッシュ聖アレクサンドル・ネフスキーロシア学校（シドニー市）
2. シドニー聖ニコライロシア学校（シドニー市）
3. シドニー東部地区ロシア学校（シドニー市）
4. マルーブラロシア学校（シドニー市）
5. 古儀式派ロシア正教会附属ロシア学校（シドニー市）
6. 聖ヨハネロシア正教会附属ロシア学校（キャンベラ市）
7. ロシア学校「プーシキンリツェイ」（メルボルン市）
8. 聖セラフィムロシア正教会附属ロシア学校（ブリスベン市）
9. 聖ニコライロシア正教会附属ロシア学校（アデレード市）
10. 「Let's talk」ロシア学校（アデレード市）

また、オーストラリアにおいて専門的にロシア語教育やロシア研究を行っている以下の大学を訪問し、ロシア語教育の歴史・現状・課題などについて詳細な聞き取り調査を行った。

1. Macquarie University, NSW: Dr. Marika Kalyuga (Head of Russian Studies, European Languages, Division of Humanities, Faculty of Arts), Dr. Nonna Ryan (Honorary Associate)
2. The University of New South Wales: Dr. Larissa Koroleva (Head of Russian Studies, School of Languages and Linguistics, Faculty of Arts and Social Sciences)
3. The University of Queensland, QLD: Dr. John McNair, Dr. Lyndall Morgan (Russian Studies, School of Languages and Comparative Cultural Studies)
4. The University of Melbourne, VIC: Dr. Robert Langerberg (Head of Russian section, German, Russian and Swedish studies, School of Languages and Linguistics, Faculty of Arts)
5. The Australian National University, ACT: Dr. Kevin Windle (Translation and Russian, School of Language Studies, Faculty of Arts)

3. 研究成果

3.1 オーストラリアの移民と言語

Table 1: Top 20 Non-English-Countries Contributing to Settler Arrival 2006-2007

	Country of Birth	Total Migration and Humanitarian
1	India	13496
2	China (excludes SARs and Taiwan)	12009
3	Philippines	5561
4	South Africa	3996
5	Viet Nam	3135
6	Malaysia	2899
7	Sri Lanka	2721
8	Sudan	2513
9	Iraq	2213
10	Afghanistan	2186
11	Korea	2092
12	Thailand	1989
13	Indonesia	1704
14	Singapore	1658
15	Burma (Myanmar)	1629
16	Fiji	1492
17	Pakistan	1446
18	Lebanon	1390
19	Iran	1077
20	Hong Kong (SAR of China)	995
	Total	66201
	All other NESB countries (approx.)	21148
	Total NESB countries (approx.)	87349
	English Speaking Countries (approx.)	52799
	Total Arrival	140148

Source: Dept. of Immigration and Citizenship 2007

Table 2: Language Other Than English Spoken at Home, Capital Cities, 1996-2006

	Capital City	1996	2006	Change
		%	%	'000
1	Sydney	26.4	29.3	223.1
2	Melbourne	25.7	26.3	133.7
3	Brisbane	9.2	10.7	53.9
4	Adelaide	14.9	15.2	11.8
5	Perth	13.5	13.9	33.0
6	Hobart	4.9	5.1	0.9
7	Darwin	15.7	12.5	0.9
8	Canberra	13.7	14.6	6.3

Source: 1996 Census & 2006 Census (Australian Bureau of Statistics 2007)

Table 3: Top 15 Languages Spoken at Home, Australia, 1996-2006

	Language	1996	2006	Growth (1996-2006)
		'000	'000	%
1	English	14564.9	15581.3	7.0
2	Italian	375.8	316.9	-15.7
3	Greek	269.8	252.2	-6.5
4	Cantonese	202.5	244.6	20.8
5	Arabic	177.6	243.7	37.2
6	Mandarin	92.4	220.6	138.9
7	Vietnamese	146.3	194.9	33.2
8	Spanish	91.3	98.0	7.4
9	German	98.8	75.6	-23.5
10	Hindi	34.0	70.0	106.0
11	Macedonian	71.3	67.8	-4.9
12	Croatian	69.2	63.6	-8.0
13	Korean	29.9	54.6	82.6
14	Turkish	46.2	53.9	16.6
15	Polish	62.8	53.4	-14.9

Source: 1996 Census & 2006 Census (Australian Bureau of Statistics 2007)

Table 4: Language Maintenances Estimates in Selected Ancestry/Language Groups

	Ancestry	Speake language at home	Language maintenance % Australia	Language maintenance % NSW
German	811,540	75,625	9.3	11.2
Duch	310,089	36,179	11.7	12.0
Polish	163,802	53,383	32.6	33.2
Italian	852,418	316,894	37.2	37.8
Shinhara	73,856	29,059	39.3	31.6
Serbian	95,365	52,538	55.1	62.3
Filipino*	160,374	92,338	57.6	62.9
Greek	365,147	252,216	69.1	70.1
Turkish	59,393	53,863	90.7	90.3
Vietnamese#	173,658	194,863	112.2	113.2

Source: 2006 Census

*includes Filipino and Tagalog

#Many Vietnamese declare 'Chinese'ancestry

Table 5: Community Languages School Supported by the NSW Community Languages Schools Board by the Number of Students, Locations and Teachers (2007)

Language	Students	Locations	Teachers	Language	Students	Locations	Teachers
1 Arabic	6577	56	325	24 Latvian	17	1	2
2 Armenian	267	4	36	25 Macedonian	91	4	7
3 Assyrian	265	4	37	26 Malay	8	1	4
4 Bengali	186	8	25	27 Maltese	6	3	3
5 Bosnian	180	5	9	28 Mandaeen	179	1	5
6 Chinese (Cantonese)	3322	24	281	29 Persian	256	9	36
7 Chinese (Mandarin)	5625	68	422	30 Polish	213	8	28
8 Croatian	123	4	8	31 Portuguese	215	9	11
9 Dari	480	12	48	32 Punjabi	146	5	16
10 Dinka	11	1	7	33 Russian	282	7	53
11 Filipino	12	1	1	34 Samoan	59	1	8
12 Finnish	16	1	3	35 Sanskrit	16	1	2
13 German	91	5	8	36 Serbian	339	7	10
14 Greek	2846	87	113	37 Sinhala	180	3	22
15 Hebrew	125	6	8	38 Spanish	161	7	12
16 Hindi	393	5	44	39 Swedish	134	9	11
17 Hungarian	43	1	3	40 Tamil	811	11	83
18 Indonesian	232	2	6	41 Telugu	16	2	2
19 Italian	752	21	34	42 Thai	94	2	10
20 Japanese	605	7	55	43 Turkish	594	12	38
21 Khmer	167	2	15	44 Ukrainian	72	3	21
22 Korean	1658	18	144	45 Vietnamese	4317	44	321
23 Lao	67	1	6	Total	32,249	493	2343

Source: Community Languages Matter(2008)

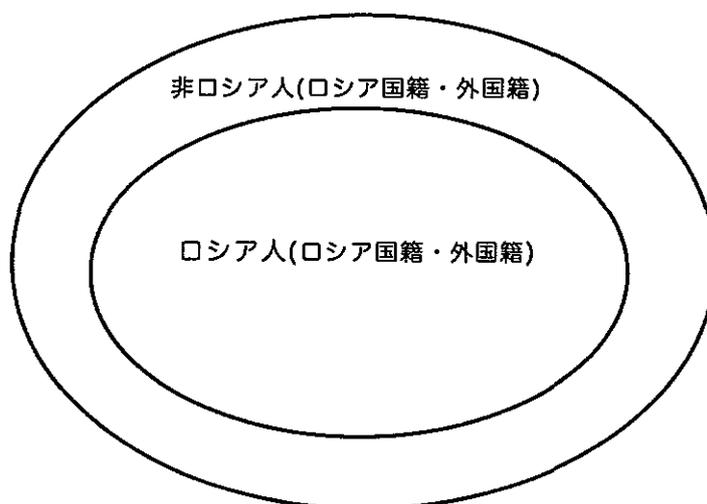
表6 ロシア語母語話者の分類

ロシア語母語話者	ロシア系ロシア語母語話者 (ロシア人)	ロシア国籍のロシア系ロシア語母語話者
		外国籍のロシア系ロシア語母語話者
	非ロシア系ロシア語母語話者 (非ロシア人)	ロシア国籍の非ロシア系ロシア語母語話者
		外国籍の非ロシア系ロシア語母語話者

作成：白山利信

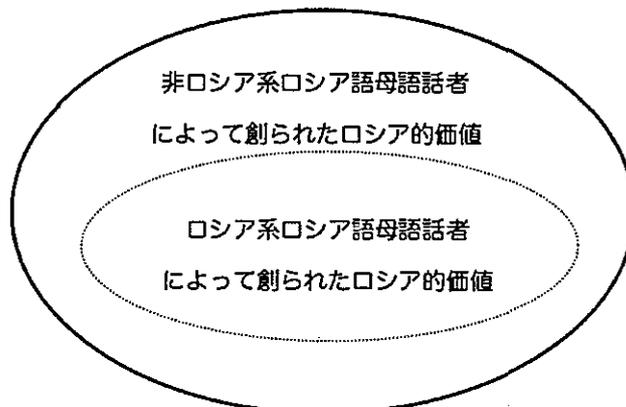
- 世界のロシア語母語話者・・・約1億7000万人 (Encarta Encyclopedia 1998)
- ロシア連邦のロシア語母語話者・・・約1億4180万人 (国連人口基金 2008) , 全人口の8割以上がロシア人
- ロシア連邦以外のロシア語母語話者・・・約2820万人
- オーストラリアのロシア語話者・・・82,409人 (2006 Census of Population and Housing, Australia)
- ロシア生まれの在豪ロシア語(母語)話者・・・15,354人 (2006 Census of Population and Housing, Australia)
- オーストラリア生まれの在豪ロシア語話者・・・67,055人 (2006 Census of Population and Housing, Australia)

図1 世界のロシア語母語話者



作成：白山利信

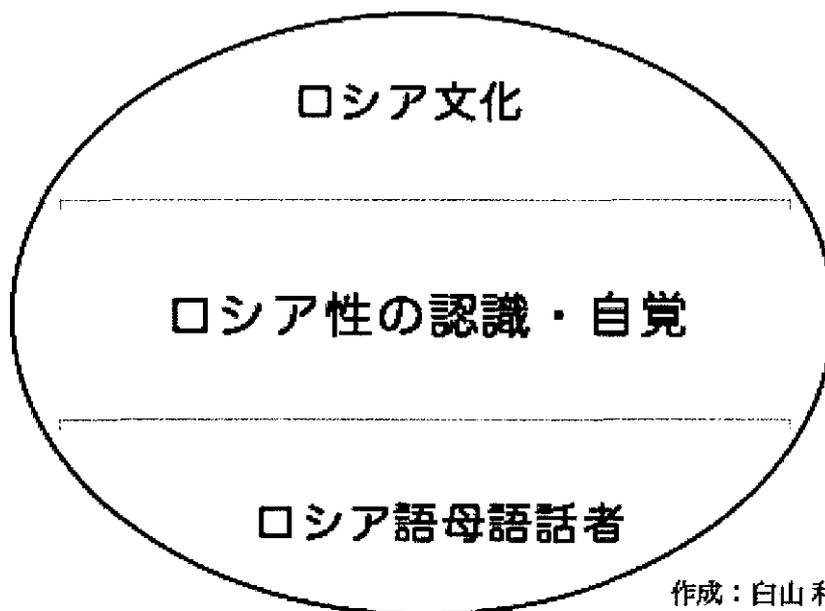
図2 ロシア文化



作成：白山 利信

- ロシア語母語話者，特にロシア人にとって，「ロシア性」とは何か？
- 「ロシア性」とは，ロシア語母語話者とロシア語を基盤とする，広い意味での「ロシア文化」である。
- 「ロシア文化」とは，ロシア語母語話者によって創り出されたロシア的価値の総体である。

図3 ロシア世界



作成：白山 利信

○ロシア語母語話者、特にロシア人にとって、「ロシア世界」とは何か？

○「ロシア世界」とは、「ロシア文化」と「ロシア語母語話者」が存在し、彼ら自身が「ロシア性」を強く認識・自覚する場所である。

3.4 在豪ロシア系移民の同化のプロセス

○移民たちの異言語・文化環境における同化は、彼らがその社会に適応し、恒常的に暮らし、かつその国民にならなければならない以上、基本的に不可避である。移民先の社会の言語・文化の知識と理解なくしては、支障のない日常生活を送ることはできない。

○移民たちの同化過程は、その社会の言語と文化を習得・獲得し、その社会に適した人格を形成していくプロセスに他ならない。

○移民たちの母語と母文化の保持の程度は、移民した時の年齢とその後の母語と母文化を保持するための努力にかかっている。

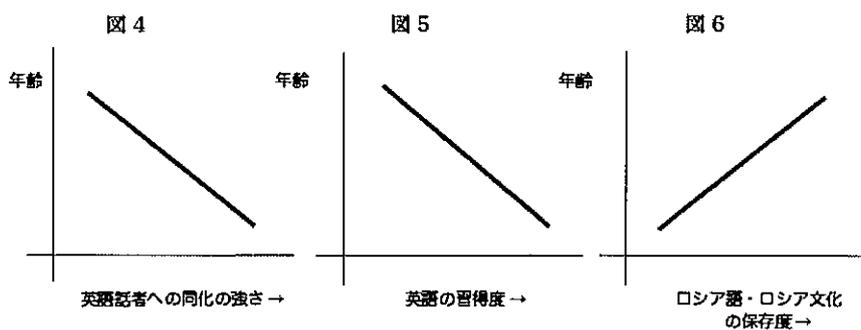
○移民の年齢は、その母語と母文化を保持するための、非常に重要な要素である。なぜならば、それは移民先の新しい言語と文化を受容するのに必要な柔軟性と深く結び付いているからである。

○以上の事実を踏まると、次の三つの移民に関する定式を導き出すことができる。

①移民は、移民した時の年齢が高ければ高いほど、移民先の社会の人間に同化する力は弱い。逆にその年齢が低ければ低いほど、その社会の人間に同化する力が強い。したがって、オーストラリアに移民したロシア人は、移民時の年齢が高ければ高いほど、オーストラリア系英語話者に同化する力は弱く、その年齢が低ければ低いほど、同化する力が強い。（図4を参照）

②移民は、移民した時の年齢が高ければ高いほど、移民先の社会の言語（公用語）を習得する力は弱い。逆にその年齢が低ければ低いほど、その言語を習得する力が強い。したがって、オーストラリアに移民したロシア人は、移民時の年齢が高ければ高いほど、英語を習得する力が弱く、その年齢が低ければ低いほど、習得する力が強い。（図5を参照）

③移民は、移民した時の年齢が高ければ高いほど、母語と母文化を保持する力が大きい。逆にその年齢が低ければ低いほど、保持する力が弱い。したがって、オーストラリアに移民したロシア人は、移民時の年齢が高ければ高いほど、母語と母文化を保持する力が強く、その年齢が低ければ低いほど、保持する力が弱い。（図6を参照）



作成：白山利信

○このように移民した時のロシア人の年齢が低ければ低いほど、その人はオーストラリアの生活に適応しやすく、年齢が高ければ高いほど、適応しにくいということが言える。

○上記の三つの定式に基づき、（成人時の）在豪ロシア系移民の同化プロセスをモデル化すると表7のようになる。

表7 在豪ロシア系移民の同化過程モデル

		第1世代*		第2世代		第3世代	
年齢層	移民時の年齢	ロシア語と英語の習得度*	ロシア語・ロシア文化の保持率	ロシア語と英語の習得度	ロシア語・ロシア文化の保持率	ロシア語と英語の習得度	ロシア語・ロシア文化の保持率
1層	60-	Rus◎ Eng×	100%	-	-	-	-
2層	40-59	Rus◎ Eng△	80-100%	Rus○ Eng◎	60-80%	Rus△ Eng◎	40-60%
3層	20-39	Rus◎ Eng○	60-80%	Rus△ Eng◎	40-60%	Rus× Eng◎	20-40%
4層	12-19	Rus◎ Eng○	40-60%	Rus× Eng◎	20-40%	Rus× Eng◎	0-20%
5層	0-11	Rus△ Eng◎	20-40%	Rus× Eng◎	0-20%	Rus× Eng◎	0%

対応する第一世代の移民		第4世代		第5世代		第6世代	
年齢層	年齢	ロシア語と英語の習得度	ロシア語・ロシア文化の保持率	ロシア語と英語の習得度	ロシア語・ロシア文化の保持率	ロシア語と英語の習得度	ロシア語・ロシア文化の保持率
1層	60-	-	-	-	-	-	-
2層	40-59	Rus× Eng◎	20-40%	Rus× Eng◎	0-20%	Rus× Eng◎	0%
3層	20-39	Rus× Eng◎	0-20%	Rus× Eng◎	0%	Rus× Eng◎	0%
4層	12-19	Rus× Eng◎	0%	Rus× Eng◎	0%	Rus× Eng◎	0%
5層	0-11	Rus× Eng◎	0%	Rus× Eng◎	0%	Rus× Eng◎	0%

* 在豪ロシア系移民の出発点となる世代

** ◎ネイティブレベル, ○上級レベル, △中級レベル, ×初級ないしゼロレベル

作成：白山利信

○表7は、ロシア系移民がオーストラリア系英語話者に同化していく具体的なプロセスを示している。

○第1世代は、実際にオーストラリアに移住したロシア系住民である。第2, 3, 4, 5, 6世代は、彼らの子孫である。

○第1世代の年齢は、5つの年齢層（①60歳以上、②40～59歳、③20～39歳、④12～19歳、⑤0～11歳）に分けられる。

○第1世代の第1～4年齢層のロシア系移民にとって、ロシア語は第一言語であり、英語は第二言語である。彼らは、ロシア語母語話者である。

○第1世代の第5年齢層だけは状況が異なる。彼らにとってロシア語は第一言語ではなく、第二言語である。彼らは英語を第一言語とする英語母語話者である。

○第1世代のロシア語およびロシア文化の保持率は、移民時の年齢に大きく依存している。その保持率は、次世代以降、相対的に、また漸次的に低下していく。

○第2世代以降、ロシア系住民にとっては、英語が第一言語で彼らの母語となる。したがって、第2世代以降の同化のプロセスは、加速し、かつ深化していく。

○我々のモデルによる予測では、第4, 5世代以降、ロシア語およびロシア文化の保持率は最低水準に達し、第6世代では、オーストラリア系英語話者への同化過程が完全に終了する。

3.5 在豪ロシア系移民のロシア語・ロシア文化の保持に寄与している要因

○ロシア系移民の同化過程に歯止めをかけることはできないのか？ 在豪ロシア系移民がロシア語とロシア文化を保持することは不可能なのか？

○非常に困難ではあるが、可能である。実際に在豪ロシア系系移民（住民）コミュニティでは、一定の程度、ロシア語とロシア文化が保持されている。

○現地調査の結果、在豪ロシア系移民（住民）のロシア語運用能力の保持・伸長の成否、民族的・文化的アイデンティティーの保持の成否に少なくとも28のファクターが関わっていることが判明した。

○具体的には、1.オーストラリアの移民政策、2.オーストラリアの言語政策、3.移民の動機（政治難民、経済移民）、4.ロシア・ロシア語・ロシア文化に対する愛情と関心、5.ロシア系移民コミュニティの相互扶助力・連帯感、6.ロシア本国からオーストラリアへの継続的な移民、7.両親の努力、8.祖父母の支援、9.ロシア系移民同士の結婚、10.民族としてのロシア人、11.在豪ロシア系移民同士の家族レベルでの私的行事、12.テレビ・ラジオのロシア語放送、13.インターネット、14.在豪ロシア語新聞・雑誌の刊行、15.ロシア正教会、16.ロシア民族学校、17.在豪ロシア系移民のための組織・団体、18.大使館などのロシア連邦所管の在豪公的機関、19.ロシア研究やロシア語教育を実施しているオーストラリア国内の大学、20.在豪ロシア系移民のた

めの図書館, 21. ロシア系移民が働いている職場の専門性・多様性, 22. 在豪ロシア語専門書店, 23. ロシア料理レストラン, 24. 地理的距離, 25. 文化的同質性, 26. 在豪ロシア系移民による民族的・文化的行事の恒常的開催, 27. ロシア旅行, 28. オーストラリア人のロシアに対する肯定的なイメージ, である。

3.6 調査研究のまとめ

1. 在豪ロシア系移民のオーストラリア系英語話者への同化のプロセスは、全体として第二世代以降、確実に進行している。
2. 在豪ロシア系移民の中には、第三世代に入ってもロシア語とロシア民族的・文化的アイデンティティーを非常に高い水準で保持している家庭が存在する。
3. 在豪ロシア系移民のロシア語運用能力の保持・伸長の成否、民族的・文化的アイデンティティーの保持の成否に28のファクターが関わっている。
4. 現在のオーストラリアには、上記の28のファクターが存在し、相対的には一定の均衡の下で肯定的に機能しているので、在豪ロシア系移民のロシア語とロシア民族的・文化的アイデンティティーが保持され得る環境は辛うじて確保されている。
5. 近年、ロシア・旧ソ連諸国からオーストラリアへの継続的な移民の流れが急速に縮小している（例えば、旧ソ連出身の移民では、1993年は約21000人であったが、2007年は約1000人）、人口学的観点から在豪ロシア系移民の言語と民族的・文化的アイデンティティーの保持を可能にする力が暫時的に弱まっていく可能性が非常に高い。
6. オーストラリアの大学におけるロシア語教育およびロシア研究の状況は、ペレストロイカ期、ソ連崩壊直後の時期をピークに悪化の一途を辿っており、今後も非常に厳しい教育・研究環境が続いていくものと思われる。

なお、在外研究中、以下の2件の特別講演会を実施した。

1. USUYAMA Toshinobu, Central Asia and Russian Language—The Case Study on Kyrgyz Republic—Special Lecture, Russian Studies, Department of European Languages, Macquarie University, Building W6A, Room 206, Sydney, 17:00-18:30, 29.10.2008.
2. USUYAMA Toshinobu, Australia and Russian Language—On Preservation of Language and Culture of Russians in Australia—Special Lecture on Russian Studies in Australia, Russian Ethnic Community Council of NSW Inc., Level 2, 29-31 Belmore street BURWOOD, NSW, 15:00-17:00, 22.12.2008.

また、在豪ロシア系コミュニティと在豪ロシア語新聞の取材を受け、以下の記事が掲載された。

1. «Вестник Русского Этнического Представительства штата НЮУ» (Newsletter of Russian Ethnic Community Council of NSW Inc.), No.42, p.4, December 2008.

2. «Единение»(Unification), Русская еженедельная газета(Russian Weekly Newspaper in Australia), «Наше Интервью/ Сохранение русского языка/ Необычная беседа»(Our Interview/ Preservation of Russian Language), No.3(3051), p.3, 23.01.2009.

在外研究中に収集した主な資料

Научные статьи журналов и книг:

- 1 *Melbourne Slavonic Studies*, No.1(1967)-, The University of Melbourne, Melbourne.
- 2 *Australian Slavonic and East Eurorean Studies*, Volume 1, Number 1(1987)-, Journal of the Australian and New Zealand Slavists' Association and of the Australian Association for the Study of the Socialist Countries.
- 3 Zena Harris and Nonna Ryan, *Orthodoxy – a factor in shaping Russian Society*, *Русистика*, No.29, The journal for teachers and learners, UK, pp. 12-18, 2004.
- 4 *Russia and the Fifth Continent (Aspects of Russian-Australian Relations)*, Ed. by John McNair and Thomas Poole, University of Queensland Press, 1992.
- 5 Margaret Travers, *Slavonic Languages in Australia since 1958*, Sydney University Press, 1977.

Монографии:

- 1 Нонна Райан, *Россия – Харбин – Австралия (Сохранение и утрата языка на примере русской диаспоры, проживающей XX век вне России)*, Изд. «Русский путь», М., 2005.
- 2 Elena Govor, *Australia in the Russian Mirror (Changing Perceptions 1770-1919)*, Melbourne University Press, 1997.
- 3 *Russians in Australia*, No.1(1968)-, Monograph series under the general editorship of Nina Christesen, University of Melbourne.

Местные русские исторические журналы и книги:

- 1 *Австралиада (Русская летопись)*, No. 1(1994)-, «Австралиада», Сидней.
- 2 *Политехник*, Объединение инженеров, окончивших харбинский политехнический институт, No.7, Сидней, 1975
- 3 *История русских в Австралии*, Том 1, «Австралиада», Сидней, 2004.
- 4 *Russian in Strathfield (A Community Profile 1949-1999)*, The Russian Ethnic Community Council of NSW Inc. and Russian Historical Society in Australia, Sydney, 1999.
- 5 Tubabao (Russian Refugee Camp, Philippines 1949-1951), Russian Historical Society in Australia, Sydney, 1999.
- 6 Русские харбинцы в Австралии, No. 1, «Австралиада», Сидней, 1998.
- 7 Русские харбинцы в Австралии, No. 2, «Австралиада», Сидней, 2000.

Местные русские литературные журналы и произведения:

- 1 *Австралийская Мозаика (Художественно-познавательный альманах)*, No.1(2001)-, Редактор и издатель: Татьяна Торлина, Сидней.
- 2 *Жемчужина (Литературно-художественный образовательный журнал)*, No.1 (2000)-, «Жемчужина», Брисбен.
- 3 Наталья Миллис, ... *театральные будни*, выпуск 1, Myponga SA, 2008.
- 4 В.М. Пугачёв, *Без Тебя, Россия*, «Австралиада», Сидней, 1996.
- 5 Семён Литвинцев, *На перекрестке эпох*, Избранная лирика, Сидней, 2001.
- 6 Т.Н. Малеевская, *Душенька*, Рассказы, Изд. «Жемчужина», Брисбен, 2006.
- 7 Серфима Лагтева, *Русунок на салфетке из ресторана*, рассказы и повести, Сидней, 2008.
- 8 Олег Козин, *Под южным крестом*, Избранные стихотворения, Аделаида, 1993.
- 9 Владимир Венгеров, *Игра судьбы*, Роман-быль, Сидней, 1999.

Местные русские газеты:

- 1 *Единение*, Русская еженедельная газета, Австралия.
- 2 *Горизонт*, Еженедельная газета, Австралия.

Книги и материалы (в том числе и учебные пособия) русских этнических школ и университетов:

- 1 35-й Юбилей, Школа Св. Александра Невского в Хомбуш, 2006.
- 2 *Information Booklet (2008 Fees and Other Information)*, Russian Language School «Pushkin Lyceum», Melbourne, 2008.
- 3 Добро пожаловать в школу, Русская школа клуба «Давай поговорим», Аделаида, 1996.
- 4 *Russian for background speakers*, Stage 6 HSC course, Module 5 Интересы и проблемы молодёжи, Learning Materials Production (Text book of Open High School), Open Training and Education Network, NSW Department of Education, 2002.

- 5 М. Калюга, *Русский язык (Игры, Загадки, Упражнение)*, Eastern Suburbs Russian School.
 6 Undergraduate Guide 2007, School of Languages and Linguistics, Faculty of Arts, The University of Melbourne.
 7 *Handbook of Postgraduate Studies*, Macquarie University, Sydney, 2007.

Материалы и книги организаций:

- 1 *Вестник*, Номер 20(2001)-, Newsletter of Russian Ethnic Community Council of NSW.
- 2 *Золотой Юбилей (1924-1974)*, Русский клуб, Сидней, 1974.
- 3 *Annual Report 2007/8*, The Ethnic Schools Association of SA Inc., Ethnic Schools Education Centre.
- 4 *Annual Report 2007/8*, SBS.
- 5 М.Н. Чуркин, *Российский Общественный Центр в г. Аделаиде Ю. А.*, Из доклада М.Н. Чуркина на празднования 30 летнего Юбилея РОЦ в 1999 г.
- 6 Beatriz Cardona, Greg Noble, Bruno Di Biase, *Community Language Matter (Challenges and opportunities facing the Community Language Program in New South Wales)*, The University of Western Sydney, 2008.
- 7 *Вестник*, 28, Свято-Николаевская Русская Православная Церковь Заграницей, Аделаида, Январь-Март 2005.

Другие материалы:

- 1 *Скаутский мир*, Газета для всего скаутского мира и окрестности, No.3 (38), май-июнь 2007, Москва.
- 2 *Русские в Китае*, No.55, газета, Июнь 2008, Екатеринбург.
- 3 *Русская Атлантида*, 8, журнал, 2002, Челябинск.

Устные материалы интервью:

- (Русскоязычных в Сиднее, Мельбурн, Канберра, Брисбен, Аделаида)
 - Больше 30 человек разного возраста, национальности и волн иммиграции

(Директоров и др. русских школ)

- Школа Св. Александра Невского в Хомбуш (Н.А. Запелов, Л.С. Мигунова), NSW
<http://www.russian-school.narod.ru>
- Св. Николаевская школа русского языка в Сиднее (Вера В. Фрикер), NSW
<http://www.stnicholasschoolofrussian.com.au>
- Русская школа восточных районов г. Сиднея (Наталья Котик), NSW
- Русская школа в Марубра (Надежда А. Сазанова), NSW
<http://www.russianschool.com.au>
- Русская школа при церковном приходе Святого Иоанна Предтечи (Тамара В. Макеева), ACT
<http://www.stjohnthebaptist.org.au/index.ru.html>
- Русская школа «Пушкинский Лицей» (Марина П. Макарова, Ирина Б. Суворова), VIC
<http://www.pushkinlyceum.org.au>
- Русская школа при свято-серафимовской церкви (Юлиана С. Мотина), QLD
http://www.russianschool.org.au/default_eng.html
- Русская школа при церкви Святого Николая (Валентина Нагель), SA
- Русская школа Ассоциации Аделаиды «Давай поговорим» (Наталья В. Москвичёва), SA
<http://www.letstalktogether.com.au>

(Преподавателей русского языка университетов)

- Macquarie University, NSW: Dr. Marika Kalyuga (Head of Russian Studies, European Languages, Division of Humanities, Faculty of Arts), Dr. Nonna Ryan (Honorary Associate)
<http://www.eurolang.mq.edu.au/russian>
- The University of Queensland, QLD: Dr. John McNair, Dr. Lyndall Morgan (Russian Studies, School of Languages and Comparative Cultural Studies)
<http://www.arts.uq.edu.au/slccs/index.html?page=19596&pid=18001>
- The University of Melbourne, VIC: Dr. Robert Largerberg (Head of Russian section, German, Russian and Swedish studies, School of Languages and Linguistics, Faculty of Arts) http://www.grs.unimelb.edu.au/study_areas/russian.html
- The Australian National University, ACT: Dr. Kevin Windle (Translation and Russian, School of Language Studies, Faculty of Arts)
<http://studyat.anu.edu.au/programs/3100HBARTS;overview.html>

オーストラリアとロシア語

—— 在豪ロシア系移民のロシア語・ロシア文化の保持に関する一考察 ——

白山 利信

オーストラリアでのロシア系移民は8万人を越え、シドニー市内には7校のロシア民族学校があり、ロシア系移民の子供たちがロシア語で教育を受けている。そこでは、白系ロシア人たちの第三世代、つまり孫の世代やソ連崩壊後にオーストラリアに移民したロシア人の子供たちが学んでいる。そもそも移民と言っても様々な移民の波がある。ロシア系移民たちがどのようにしてロシア語を守り、ロシア文化を代々伝えてきたのか、またオーストラリアというイギリス系ヨーロッパ文化の影響の強い英語圏国家で、ロシア人としてのアイデンティティーをどのように形成しているのか、あるいはオーストラリア人としてのアイデンティティーとロシア人としてのアイデンティティーをどのように両立させているのか、筑波大学国際連携プロジェクトの一貫として「オーストラリアにおけるロシア系移民のロシア語教育とアイデンティティーに関する調査研究」を2008年7月1日～2009年1月7日（計191日間）行った。その結果によれば、英語話者への同化プロセスが確かに進行しているものの、ロシアのアイデンティティーを高い水準で維持している家庭は存在し、保持・継承の環境（28ファクター）も確保されている。一方で、大学に於けるロシア語教育およびロシア語研究の状況は悪化している。